

1 学期始業式 校長講話

令和3年度が始まりました。感染の状況は決して思わしくない現実ですが、しばらくこのコロナ禍が続くと考え、この時代だからこそ自分のできることを考えて、決して悲観せずに行動していきましょう。今 という時間は、どうであれ「今」しかありません。後悔するのも自分です。そんな心意気で今年度を過ごしましょう。

さて、長野県教育委員会では、国がすすめる「GIGA スクール構想」により、学習に有効に ICT を活用していくことを積極的に進めようとしています。特に、自分のタブレットやスマホを自分の学習しやすいようにカスタマイズし、学習に使っていくということを考えています。本校にもその学習のために、校内に WIFI 環境が整いました。セキュリティーがかかりますので自由に皆さんのスマホを繋ぐことはできませんが、学校にも3人に1台のタブレットが配備されましたので、今年度から積極的にタブレットを利用した学習を取り入れていきます。機器を使用していくことに加え、学んだことを発信していく、また、感染状況が許せば、人と協働して作業するような取り組みも取り入れていきます。しかし、本校が一番大切にしていることは、授業に集中して取り組むこと、手から能に伝わる「書く」という作業から始まる学習の重要性、わからないことは先生と1対1で繰り返し学習していく、課題にしっかり取り組み提出するという癖をつけるなど、まずはその定着に向け取り組みますので、皆さんも今まで通り、きちんと学習に向き合ってください。

みなさんは、ジョン・バツカンの「魔法の杖」という童話を読んだことがありますか？

主人公の少年は路で出会った老人から不思議な魔法の杖を手に入れます。取手をまわしながら行きたい場所を唱えるとたちまちその場所に行ける。少年はその杖を使って争いに巻き込まれた小さな国の王子を救います。ところが、それに得意になっていた少年の手から、杖は突然離れてしまう・・・という話です。この「魔法の杖」を愛読したのが「ドラえもん」の作者 藤子不二雄さんで、これにヒントを得て「どこでもドア」を考案した という話は有名です。ドラえもんが世に出て50年余り、現実になったものがいくつかあります。タケコプターはドローン、翻訳こんにゃくは、グーグル翻訳や AI 通訳機器などです。少年の手から杖が逃げたのは、道具の力を自分の力と過信したからではないか。技術や立場を自分だけのことに使おうとすると世界をゆがめる。物語が言いたいことは、技術を使う「人間」の「心の持ちよう」ではないか、と、ある新聞記事にありました。テクノロジーの進歩はこれからもどんどん加速しますが、この技術をどう使うか、ドラえもんとのび太の関係性を頭に入れ、1人1人がしっかり考えなくてはなりません。

スマートフォンもタブレットも ICT 全般に上手に使ったらこんなに便利なものはありません。しかし、使い方を間違えると、それは人を死に迫いやる凶器になり得ます。3 学期終業式にも話題にしましたが、他人を認める心や、人と違う多様性がはびこる、とても興味深い時代に身を置いていく自分を、どう生かしていくか、人間力向上も重要な視点になります。

もう1点、大切な連絡があります。3月25日に、長野県教育委員会より、県の高校の再編・整備計画2次案が出され、須坂・中野地区の高校の再編計画が発表されました。これは、今後どんどん加速していく子供の減少により、学校の数の在り方や学びの方向性を考えることから始まった議論です。須坂市長を座長とする地域協議会の検討結果を受けての発表となりましたが、須坂地区も人口減に歯止めがかからない状況により、現在ある3校を2校に再編する案が出され、本

校はその再編の対象となり、長野県初の「総合技術高校プラス普通科」という新しい形の学校へと転換される方向が出されました。いよいよ動き出しますが、新しい学校への移行は数年単位の時間を要しますので、皆さんが在籍している間に学校が統合されるということはありません。数年後の未来の高校生のための新しい学校が作られていくために、須坂東高校が育んできた、普通科としての学びが、良い形で次世代へ引き継がれていくよう、歴史を作るのが皆さんの使命です。

明日、新入生 112 名を迎えます。全校生徒 430 人が、地域にとって恥ずかしくない、胸を張れる皆さんでいてくれることを切に願い、今年度が、須坂東高校の未来を創る 1 年であることを願い、私の話とします。